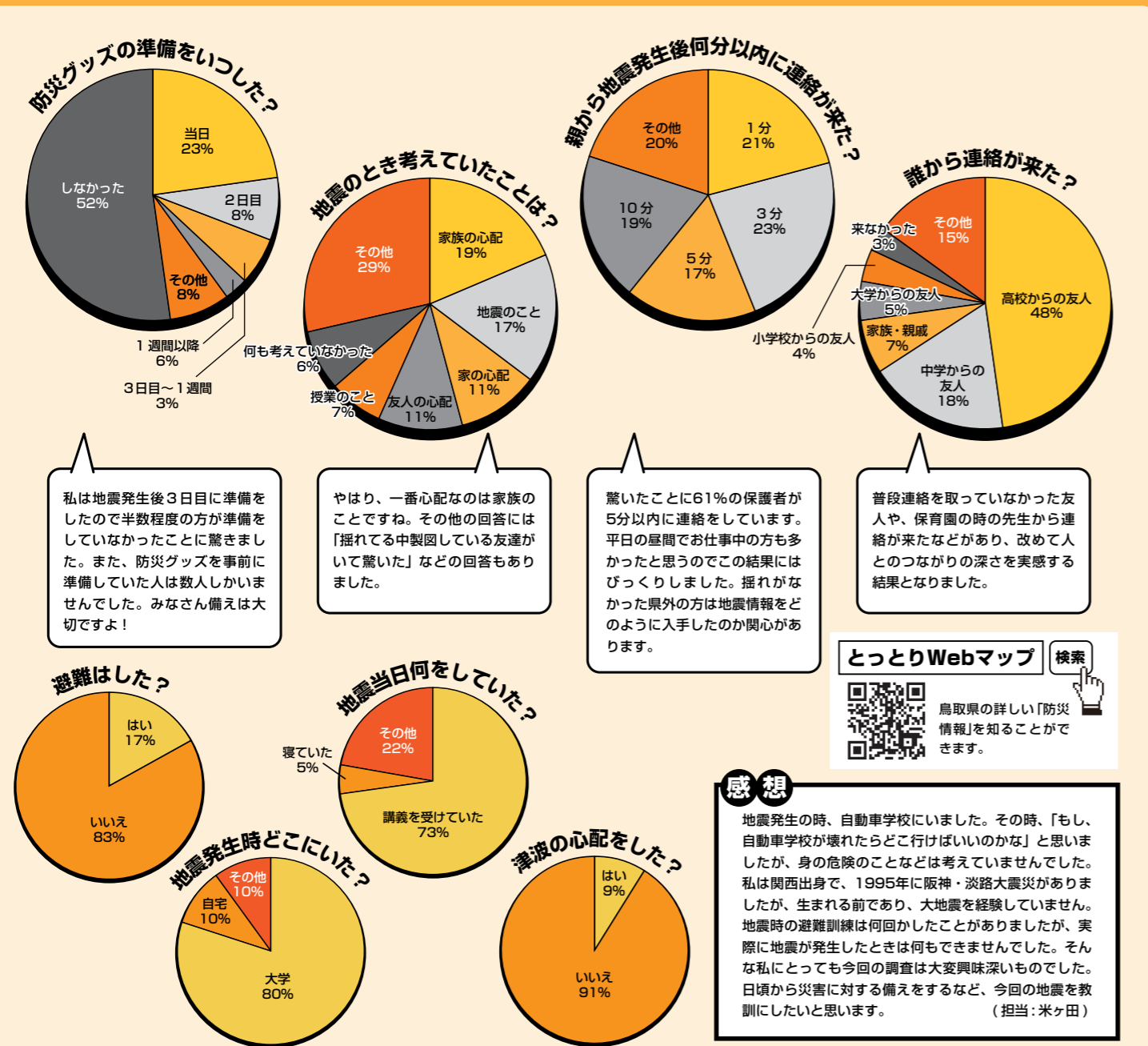


地震発生時、鳥大生は…

2016年10月21日14時7分に鳥取県中部で地震が起きました。地震の規模はマグニチュード6.6で、最大震度は6弱でした。幸いなことに、これだけの規模にもかかわらず死者は0人でした。今回の地震について、「地震の時、何をしていたか」や「親からの連絡がいつ来たか」など、ネットなどには載っていない情報を学生に調査しました。

※データ収集方法：オンラインフォーム 回答者70人



鳥取県中部地震 × ボランティア

鳥取県中部を震源とする地震に際して、被災地の復旧活動を応援するために学生がボランティアに行きました。そこで今回は、実際にボランティアに行った谷本圭志教授(社会経営工学)の研究室に所属する4名の学生にインタビューしました!



研究室では普段どんな研究をしているのですか？

私たちの研究室では、公共交通系を中心に研究をしています。社会の仕組みづくりを学ぶ学科なので、他にも「避難所と道路ネットワークの関係」の研究や、「地方創生」に関する研究をしています。

ボランティアとしてどのような活動を行いましたか？

まず、ボランティアセンターに被災した方からこういうことをして欲しいというニーズが届き、ニーズ受付表が作られます。そして被災した方の住所を元に地図を作り、その地図に被害の状況などを書き込んで、訪問するボランティアの班に渡すという作業をしました。また、被害の状況や被災した家屋がどうなったのかなど実際に現地へ確認に行きました。他にも被災された方への聞き取りも行いました。「こういうボランティアに来てほしい」という希望を出した人の家に、実際の被害状況はどうか、書いてある要望が具体的にはどういふことが、他に何かしてほしいことはあるかなどを聞きに行きました。また、被災された方は精神的にストレスを抱えている方が多いので、夜きちんと眠れているか、体調を崩していないかなどの聞き取りも行いました。

実際ボランティアに行って苦労したことはありますか？

まず、被災地の状況を掴むという点で苦労しました。私たちが初めてボランティアに行った時は、現地のボランティアセンターがどのような対応をしているのかわからない状態だったので、正直なところ何をすればいいのかわかりませんでした。また聞き取りでは、被災者の方が遠慮なく困っていることを話してくれる雰囲気をつくるのが大変でした。しかし、ボランティア活動中では苦労することよりやりきれない思いを持つことが多かったです。私たちボランティアが行動できる範囲は本当に少なかったため、心苦しかったです。



感想 今回の地震について、活断層があると言われていない場所から発生したということを知り、非常に驚きました。時が経つにつれて薄れてしまいがちですが、災害に対する意識はきちんと持っていなければいけないと感じました。(大森)

ボランティアに行かれた感想を教えてください。

(小澤)地震が起きた時、私は大学内にいて大きく揺れましたが、そんなに大きな被害ではないかなと思っていました。でも実際に被災地へ行ってみると、ブルーシートがかなりの割合で掛けられていて、地震の爪痕がひどいという印象を受けました。

(野々上)被災地に行った感想として、まず、大きく家が崩れていなかったのが安心しました。しかし、1人暮らしの高齢者の方が多く、屋根にブルーシートを掛けるなどの雨漏りへの対処や家の修復が難しいという話を聞きました。また、余震があるため、避難所から自宅へ帰るタイミングが掴めない高齢者の方もいました。1人暮らしの高齢者の方にとっては、家などの外観的な被害だけでなく精神的被害も大きいのだらうなと思いました。

(河野)想像していたよりは、外から見た被害が少ないように見えました。しかし、被害があまり大きくなかったために補償などの面が思わしくなく、苦労している方もいらっしやるようでした。倉吉市にある私の実家では、今回の地震によって外壁に亀裂が入っていたり、家の中では壁が剥がれていたり大変でした。

(山口)被災した方からボランティアへのクレームもあり、対処の大変さを経験できました。また、普段被災者の方をサポートしていく立場自体なかなかないので、大学で勉強した内容をいかに活かしていくことができるのか発見する機会になりました。

今回の地震によって、地震に対する意識は変わりましたか？

(小澤)私は愛知県出身で太平洋寄りのところに住んでいるのですが、南海トラフなどで小学校の時から「明日いつ地震が起きてもおかしくない」と言われながら育ってきました。だから元々地震に対する備えはやってきています。

(野々上)今回の地震は、活断層があると言われていない場所から発生したので、「自分の住んでいる所はあまり地震が起きない地域だから大丈夫」というのは通用しないということを実感しました。

(山口)私は県中部にある三朝町に実家があり、私の家の場合には水道管が壊れてしまい断水があったので、水の準備はしておいた方がいいと思いました。また、家の中の背の高いタンスや棚が倒れたので、固定しておく方がいいのかなと。備えは必要だと感じました。

(河野)確かに私の実家でも被害はありましたが、断水することはなかったので、私の地震に対する意識はあまり変わりませんでした。ですがもし断水が起こった時のために、水の準備はしておこうと思います。

ニュースでは知ることのできない被災地の実情を知ることができました。今まで災害に対して他人事のように感じていましたが、取材をして災害は身近にあるものなのだと思うようになりました。(担当:加藤)

鳥取県中部地震により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

インタビュー

今回のイベントを企画した「山陰神話プロジェクト」の米村 明敏さん(地域学部地域政策学科4年)、後藤 潤一郎さん(地域学部地域政策学科3年)にインタビューさせていただきました。



Q 神話の舞台となっている地を訪問されたのですが、訪問してみてもどのようなことを感じましたか？

A 出雲大社や白兔神社、賣沼神社などを訪問してみても、人間と自然との距離が絶妙に保たれていると思いました。山・川の近くに建物が建っていて、人があまり近づかないこともあり古い建物が残っているのだと思います。

Q なぜイベントの対象者を小学生としたのですか？

A 神話は難しいというイメージを持つ人が多く、その敷居を下げるかと思いましたが、そのために体験しながら神話に触れてもらうのが良いのではないかと考えました。小学2年生の教科書には神話が取り上げられており、もう既に神話と接点があること。ア

Q 今回のイベントを運営するにあたり、苦労した点はありますか？

A 山陰神話プロジェクトとして、初めてのイベントだったので、まずは存在を知ってもらうことから始めました。鳥取市内の小学

Q 当日運営するためのボランティアはどのようにして集めたのですか？

A ボランティアは地域政策学科内で声をかけ、集まってもらいました。地域政策学科には今回のような地域の方とふれあうイベントに興味がある学生が多く、積極的に参加してくれました。また、絵の得意な地域文化学科の学生など他学科からも協力してくれました。ボランティアの中にも神話について詳しく知らない学生が多くいて、そういう学生にも神話について学んでもらうよい機会になったと思います。

Q 地域の方を大学に呼ぶことにはどのような背景がありましたか？

A 「鳥取大学に地域の人を呼びたい」という想いがこのイベントにはありました。大学との距離を縮め、鳥取大学のことをもっと知っていただきたいと思っています。

Q 今後の展望について教えてください。

A 大人を対象とした勉強会や神話の舞台をめぐるツアーを考えています。また、子供を対象とした読み聞かせもできればと思います。神話を通して、地元を誇りを持ってもらう、多くの人が鳥取の魅力を発信できるようにもなってもらえるように活動していきたいです。

Q どうして神話をテーマとしたイベントを企画されたのですか？

A 山陰の魅力について考える機会があったとき、鳥取は神話「因幡の白兔」の舞台とされているということから、神話に着目してみようと考え、まず神話について調べてみることにしました。

Q 神話についてどのようなことを調べたのですか？

A 9月に鳥取県・鳥根県の観光地で県外からの観光客1000人に、鳥取の神話についてのアンケートを行いました。その結果、多くの方が神話について興味があり、「神話といえば鳥根(出雲)」というイメージを持っていることがわかりました。神話は1つの話ごとに独立しているのではなく、一続きとなっていて、鳥取も含めた山陰全体が神話の舞台であり、神話の魅力を広めたいと思いました。

Q ゲームを考えるにあたり苦労した点はありますか？

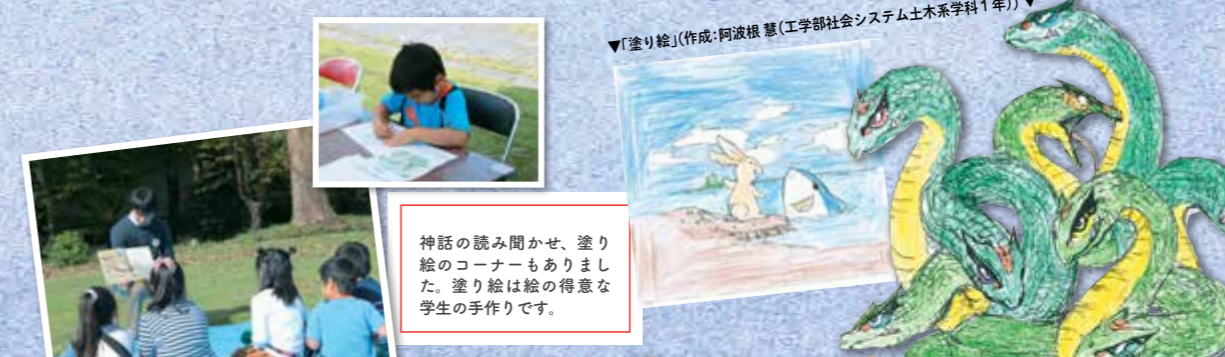
A 神話のストーリーから離れないゲームを作ろうと心がけました。神話を核として、ゲームに参加し、楽しんで神話を学んでもらいたいという気持ちから凝った装置を作るなどしました。

Q 小学生を対象としたイベントとどうして心掛けていたことはありますか？

A ゲームの題材となる神話を選ぶとき、小学生にも伝わりやすい神話を選びました。また、地域教育学科の学生にアドバイスをもらったり、マップなどの配布物にはふりがなをふったり、やさしい日本語にしたりするなど工夫しました。

Q 運営するにあたり、道の駅など学外の方と協力された点は何がありましたか？

A 学生という立場の良さは自由にアイデアを出し、提案できることだと思います。今回も私たちの方から企画を提案し、神話をもとに誕生したマスコットキャラクターは「あえちゃん」と、因幡びよん兔に由来でもらうなど協力していただきました。



神話の読み聞かせ、塗り絵のコーナーもありました。塗り絵は絵の得意な学生の手作りです。

わたしのトリイミ

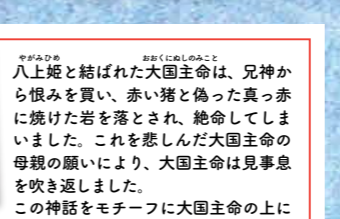
山陰神話プロジェクト編

鳥大の学生や先生方、研究室の取り組みを紹介していくコーナーです。

10月30日に「家族で神話の舞台にタイムスリップしよう！」というイベントが鳥取キャンパスにて行われました。小学生を対象とし、神話を楽しむ学ぶことができるイベントを企画したのは、「山陰神話プロジェクト」という地域学部の学生を中心とする団体です。多くの家族連れで賑わったこのイベントを取材しました。



赤猪岩



岩戸隠れ

参加者 Q&A

参加してどうでしたか？

神話を楽しく学ぶことができました。

お子さんの様子はどうでしたか？

いろいろなゲームがあり、楽しんでいる姿を見ることができました。

今まで「神話」は知っていましたか？

教科書や絵本で読んだことがありました。今回のゲームの中にも知っているお話がありました。

神話について学ぶことはできましたか？

今回紹介されていた神話の中には知らない話もあったので、勉強になりました。

今まで鳥取大学へ来たことはありましたか？

今回初めて訪れました。大学へ来るよい機会になったと思います。

「とりりん」LINEスタンプ 発売中!

LINE STOREで買えます!

トリせつ パワカンパーはごちそう!

Facebook やってます!

twitter はじめました!



▲「神話カード」の挿絵(作成:長谷川美晶(地域学部地域文化学科4年))



「山陰神話プロジェクト」メンバーと運営ボランティアの皆さん

感想 鳥取の魅力を発信できる人を増やしたいという想いを感じました。学生が地域とともに取り組む活動をさらに取材したいです。(担当:津田)